

日野市立日野第四中学校

令和 7 年度 授業改善推進プラン（国語科）

1. 生徒の現状

活用した資料等	各学年の分析結果
<1 年生> 総合学力調査 <2 年生> 定期テスト <3 年生> 全国学力調査（3 年）	<1 年生> 顕著な結果として文学的文章「話し合いの空欄に入る登場人物の考えの違いを書く」の正答率が 17.6%、活用（書くこと）「条件に従って文章書きなおす」の正答率が 43.6%であった。記述で回答することや、比較して考えを導き出すことが苦手な傾向がある。 <2 年生> 漢字の読み書きの問題の平均点が 20 点満点中 7.4 点、短歌の鑑賞文の平均点が 10 点満点中 5.5 点となっており、ほかの問題よりも平均点が低かった。漢字の読み書きや条件に合わせて文章を書くことが苦手な傾向がある。 <3 年生> 「自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる」が 34,5 %。「文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる」が 20,2 %と、こちらは都平均より 0.7%下回っていた。根拠を明らかにして書くことが苦手な傾向である。

2. 授業改善策

改善の観点	具体的な改善策
<1 年生> （1）文章の理解 （2）文法との関連 <2 年生> （1）漢字の読み書き （2）条件に合わせて文章を書く <3 年生> （1）自分の考えを根拠を明確にして書く。 （2）文章の構成を根拠を明確にして捉える。	<1 年生> （1）思考ツールを用いて、物事の比較をしたり、論理的な捉え方を学習していく。 （2）文章の読み取りを行う授業でも、主語・述語など文法の学習と関連づけながら、自分の考えを短い文章でまとめる練習を増やしていく。 <2 年生> （1）漢字を覚える方法を授業で提示し、自分にあった方法を見つけられるようにする。 （2）条件を指定した短い文章を書く機会を増やす。 <3 年生> （1）「根拠」というものを再確認させ、論理的な文章を書かせる機会をさらに増やす。 （2）文章の構成を捉える際に、根拠を明確にしながら読み取る学習活動をさらに増やす。

日野市立日野第四中学校

令和 7 年度 授業改善推進プラン（数学科）

1. 生徒の現状

活用した資料等	各学年の分析結果
< 1 年生 > (1)総合学力調査	< 1 年生 > ・「数と計算」「図形」の正答率がそれぞれ 71.0%、66.6%と、全体の 2/3 以上が正答できているのに対し、「変化と関係」「データの活用」の正答率がそれぞれ 58.3%、63.4%とやや低い。 ・「知識・技能」の正答率が 72.2%であり、基本的な知識や計算力は概ね身についている。しかし「思考・判断・表現」の正答率が 45.8 %であり、上位層と下位層の正答率の差が 58.6%であるため、既習 事項を活用して問題解決をする能力に差があり、苦手としている生 徒が多いことが分かる。
< 2 年生 > (1)授業アンケート (2)定期テスト	< 2 年生 > (1)授業アンケート ・「学習のペースや学習方法は自分に合っていると感じる。」という項目で 94.0%の生徒が「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答している。 ・「分からないことがあった時に、自分で学習方法を見つけたり解決方法を見つけようとしたりしている。」という項目で 94.1%の生徒が「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答している。 以上より、ほとんどの生徒が個の能力に合ったペースで学習し、自力解決しようとする意欲を持って授業を受けている。 (2)定期テストの得点率 ● 1 学期中間テスト - 知識・技能 70.7% - 思考・判断・表現 60.7% ● 1 学期期末テスト - 知識・技能 72.6% - 思考・判断・表現 60.7% であった。思考力・判断力・表現力については、知識・技能に比べて個人の得点率の差が大きいため、比較的習熟度が低い生徒でも思考力が身につくよう、授業の工夫が必要である。
< 3 年生 > ・全国学力調査（3 年）	< 3 年生 > ・すべての問題において、全国の平均正答率を上回る結果となった。ほとんどの項目で東京都や全国の平均より + 5 %以上上回っている。しかし、「C 関数」の 2 項目で、増加量の問題が - 2.1%、グラフを数学的な見方で活用する問題が - 1.0%と東京都の平均よりやや低めであった。また、評価の観点では「思考・判断・表現」、問題形式では

	「記述式」の項目が、東京都及び全国の結果と同様に本校でも無解答率が高くなっており、本校で最も無解答率が高かった問題も「C 関数」であった。
--	---

2. 授業改善策

改善の観点	具体的な改善策
< 1 年生 > (1)関数 (2)思考力・判断力・表現力の向上	< 1 年生 > (1)2 学期に「比例と反比例」、3 学期に「データの活用」の単元を学習するので、苦手意識をもつ生徒も取りかかりやすいような導入の工夫をする。また、小学校での既習事項との関連を意識し、復習や反復練習を行う。表やグラフをかく単元でもあるので、プリントで要点をまとめやすくしたり、I C Tを活用したりして知識の定着を図る。 (2)習熟度の高いクラスは、更に力を伸ばすよう発展問題を取り入れる。その他のクラスは、日常の事象との関連や活用方法を提示し、関心をもって単元の学習に取り組めるようにした上で、思考する問題を取り入れる。
< 2 年生 > (1)思考力 (2)表現力	< 2 年生 > (1)習熟度の高いクラスは、更に力を伸ばすよう発展問題を取り入れる。その他のクラスは、日常の事象との関連や活用方法を提示し、関心をもって単元の学習に取り組めるようにした上で、思考する問題を取り入れる。 (2)話し合い活動・教え合い活動を取り入れ、知識をもとに説明したり、問題を多角的・多面的に捉えて考えたりする場面を増やす。
< 3 年生 > (1)関数 (2)思考・判断・表現	< 3 年生 > (1)関数の式・表・グラフの基礎を身に付けさせ、式・表・グラフの関連を意識させる授業を行う。また、I C T等を利用し、視覚的に理解できるよう工夫する。 (2)身の回りの事柄について、目的に応じて数、式、図、表、グラフ等を活用し、既習の知識及び技能を関連付けながら、数学的な表現を用いて簡潔・明瞭・的確に表現したり、解決したりする時間を設定する。

日野市立日野第四中学校

令和7年度 授業改善推進プラン（外国語科）

1. 生徒の現状

活用した資料等	各学年の分析結果
<1年生> 令和7年度「総合学力調査」 <2年生> 授業アンケート <3年生> 授業アンケート	<1年生> ・必要な情報の聞き取りや単語の読み取り、文字の記述など、調査の大部分で正答率が極めて高く、基礎・基本が定着している生徒が多いと言える。 <2年生> ・語彙学習に積極的に取り組む生徒が多く、英単語のつづり・意味が定着している生徒が多く見受けられる。 ・「書く」活動に積極的に取り組む生徒が多く見受けられる。 ・「話す」活動で意見や考えは伝えられるものの、会話を継続させることが苦手な生徒が多く見受けられる。話すことへの抵抗感は少ない。 <3年生> ・自分の学習のふりかえりが苦手な生徒が一部見受けられる。 ・自分で学習方法を探すことが苦手な生徒が一部見受けられる。 <3年生> ・友達との意見交換の時間が少ないと感じている生徒が多い。 ・既習事項を用いてトピックに対する自分の意見や考えを述べることに抵抗を感じている生徒が多い。

2. 授業改善策

改善の観点	具体的な改善策
<1年生> 【思考・判断・表現】 <2年生> ①知技 ②主体態 ③思判表 ④主体態 ⑤主体態	<1年生> 学び得た知識を用いてまとまりのある英語を書いたり、レシテーションや英語劇など、口頭でも自己表現する機会を創出し、事実や自分の考え、気持ちなどをより効果的に相手へ伝えることができるように取り組ませていく。 <2年生> ①語彙学習の継続 ②ライティング課題の継続 ③毎授業での Small Talk, Try Out 活動の実施。ペアで対話をする機会を増やしていき、段階的に時間を増やして「やりとり」ができるように指導する。 ④毎単元または学期末で、既習の言語活動のふりかえりを実施する。 ⑤英語の具体的な学習方法の提案

< 3 年生 > 【思考・判断・表現】	< 3 年生 > 単元の初めに題材についての意見交換の時間を今より増やし、自分の考えや意見を他者へ共有する時間をとる。日々の授業内で、自分の意見の述べ方や、表現方法を指導していく。
---	--

日野市立日野第四中学校

令和7年度 授業改善推進プラン（外国語科）

1. 生徒の現状

活用した資料等	各学年の分析結果
<1年生> 定期テスト、授業アンケート、実験レポート	<1年生> 授業アンケートでは「学習のペースや学習方法は自分に合っていると感じる。」であてはまる、どちらかという当てはまると回答した生徒は約90%。「授業のはじめや単元のはじめに目標やねらいを示していてわかりやすいと感じる。」であてはまる、どちらかという当てはまると回答した生徒は約92%と、肯定的な回答が9割に到達していた。また、定期テストでの正答率も高い。しかしながら、自ら考えて解答を導くような問題の正答率が低い。また実験レポートで、自ら考えて結論を導いて考察を書く力に課題があると考ええる。
<2年生> 定期テスト、振り返りシート	<2年生> 身に付けた知識を単語として解答する問題では、8割前後の得点率があるが、複数の事象を組み合わせた思考を問われる問題になると、5～7割程の得点率となることが多い。特に記述では5割以下の得点率の問題もある。事象を組み合わせた際の思考力と、筋道立てて論理的に説明する力に課題があると考ええる。
<3年生> 全国学力調査、授業アンケート	<3年生> 授業アンケートでは、「分からないことがあった時に、自分で学習方法を見つけたり解決方法を見つけようとしていたりしている。」に当てはまると回答した生徒が45%に留まった。また全国学力調査では、「身の回りの事象から生じた疑問や見いだした問題を解決するための課題を設定できるかどうかをみる」問題の正答率が34%で、全国平均の45%よりも低かったため、課題解決能力に課題があると考ええる。

2. 授業改善策

改善の観点	具体的な改善策
<1年生> 自ら考える能力の育成。	<1年生> ①授業において、理科の事象がなぜ起こるのか問いかける等、つねに生徒が思考する授業を行う。 ②実験において、ただ実験を行わせるのではなく、確かめたい事象を明らかにするにはどのような実験を行えばよいかを考えさせて実験を行う。

< 2 年生 > 事象を説明する能力の育成	< 2 年生 > ①実験結果と考察を共有する機会を増やし、根拠をもとに説明する能力を育てる。 ②ジグソー法などにより、一つの現象を複数の要因を用いて考察する力を育てる。
< 3 年生 > 課題解決能力の育成	< 3 年生 > ①日常生活の中から気になる現象を取り上げ、問いを立てる力を育てる。 ②自分の問いに対して仮説（予想）を立てる力を育てる。 ③対照実験を行うなど、仮説を検証するための実験を設計する力を育てる。 ①～③を実験や調べ学習において積極的に取り入れて、課題解決能力の高める。

日野市立日野第四中学校

令和7年度 授業改善推進プラン（社会科）

1. 生徒の現状

活用した資料等	各学年の分析結果
<1年生> 1学期中間・期末テスト 授業アンケート	<1年生> 中間テストの問題別正答率を見ると、時差の問題では平均正答率が43%と他の問題に比べ低くなっている。また、期末テストの問題別正答率を見ると、南半球の雨温図を選びその理由を答える問題の正答率が22.7%と低かった。このことから、資料を読み取り自ら考える問題の正答率が低くなっていることがわかる。 また授業アンケートにおいて、「授業の終わりに自分の学習を振り返る時間があると感じる」という項目にあまりあてはまらない・あてはまないと回答した生徒は24.4%であり、他の質問項目に比べ多かった。
<2年生> 1学期中間・期末テスト	<2年生> クラス別平均点をみると、中間・期末テスト共に特定の一つのクラスが極端に低く、他の四つのクラスが学年平均点より高いかほぼ同じになっている。また、全体の得点分布を見ると、中間テストは右肩上がりの分布になっているが、期末テストは所謂「ふたこぶラクダ」の分布になっている。テスト問題の得点率をみると、社会科特有の語句ではなく、「開発」「臨海部」などの一般的な語句の得点率が低くなっていたり、理由を答えさせる問いが低くなっていたりする。
<3年生> 1学期中間・期末テスト 領域別確認テスト 学びに向かう力等に関する意識調査※R6年度	<3年生> 領域別テストでの平均値が都の標準より4.9点低い。間違ったときに「なぜか考える」は78.6%の生徒が行っているが、教員や友達に確かめる割合は44.7%である。直近2回の定期テストでも文章形式の12問の平均正答率は46.7%である。

2. 授業改善策

改善の観点	具体的な改善策
<1年生> 振り返りの充実 自ら考える授業	<1年生> まずは授業の振り返り活動の中で、疑問に思ったことや具体的に調べたことを追加できるようにし、より主体的に生徒自身が考えることができる授業にしていく。また生徒同士での観影を共有する時間を設けることで、さらに学びを深める機会を設ける。

< 2 年生 > 授業規律 説明や板書	< 2 年生 > 明らかに、授業に集中できない生徒の影響が考えられるので、対象生徒への指導の継続と学年全体での注意・取り組みを継続していく。 そして、重要語句の黄色板書のほかに一般的な語句も黄色板書をしてみる。そして、「なぜ？」という発問で、個人で考えさせる時間の設定やグループで考え、答え合わせをする時間の設定で、定着を図る。
< 3 年生 > 学習結果の確認と	< 3 年生 > グループ学習前の個人の学習での結果をグループ学習内で議論できるように時間を確保する。気になる生徒には個別での声かけをして進捗を確かめる。話すことと書くことを一体化し、考えを形としてワークシートにまとめていく。